



主な研究テーマ

□大学女子バスケットボール競技における2011年の3ポイントシュートルール改定がゲームに及ぼす影響

平成24年度の研究内容とその成果

本研究では、大学女子バスケットボール競技における、3ポイントラインが6.25mから6.75mへと50cm延長された2011年のルール改定が、3ポイントシュートに及ぼす影響について、改定前の2010年と比較検討しました。

調査対象は、2010年度、2011年度全九州バスケットボール1部リーグ戦（全日本大学バスケットボール選手権大会九州地区予選：九州地区代表3チームを決定する）の鹿屋体育大学（優勝）と、鹿屋体育大学と対戦した5チーム（対戦チーム）でした。

1) 3ポイント、2ポイント、フリースロー（1ポイント）の得点及び得点割合の比較

図1から、鹿屋体育大学の3ポイントシュートによる得点は、2010年と比較し、2011年が有意に低いことが明らかになりました。また、2ポイントシュートによる得点は、2011年が2010年よりも有意に高いことが明らかになりました。対戦チームの得点は、ルール改定前後で、いずれも有意差は認められませんでした。

次に、図2から、鹿屋体育大学の3ポイントシュートによる得点割合は、2010年と比較し、2011年が有意に低いことが明らか

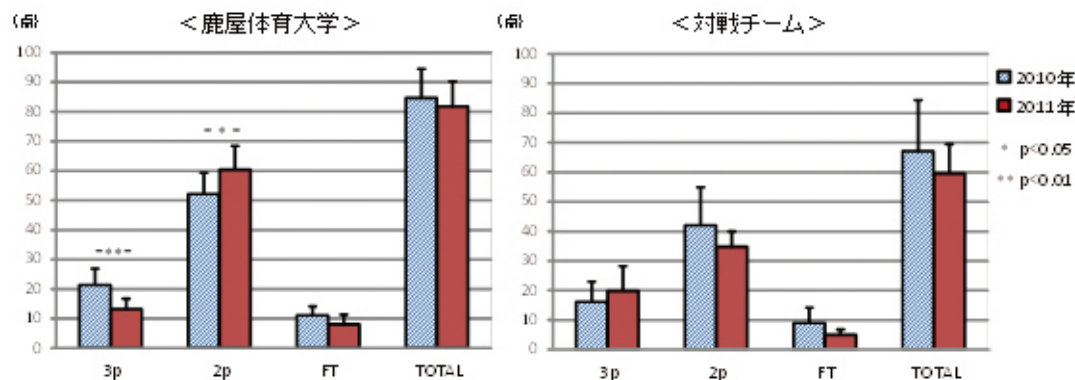


図1 ルール改定前後の得点の変化

になりました。これに伴い、2ポイントシュートによる得点割合は、2011年が2010年よりも有意に高いことが明らかになりました。一方、対戦チームの3ポイントシュートによる得点割合は、2010年度と比較し、2011年度が有意に高いことが明らかになり

ました。しかし、2ポイントシュートによる得点割合については、有意差は認められませんでした。また、フリースローについては、いずれの群も有意差は認められませんでした。

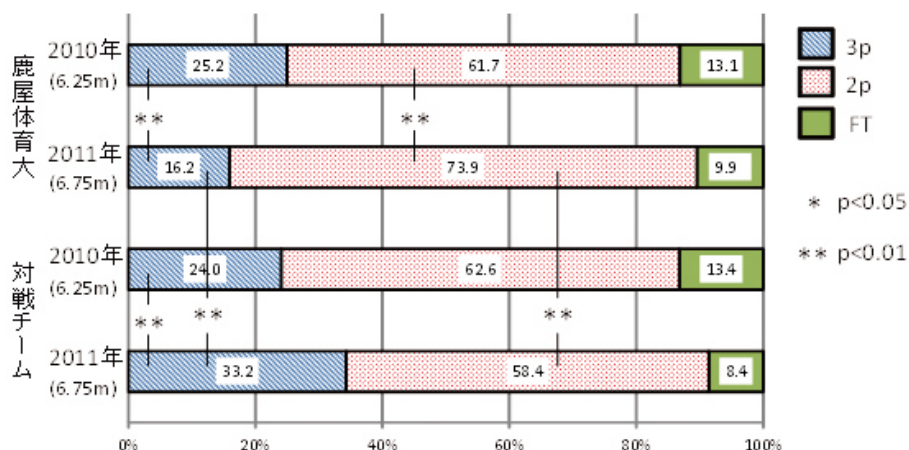


図2 ルール改定前後の得点割合の変化

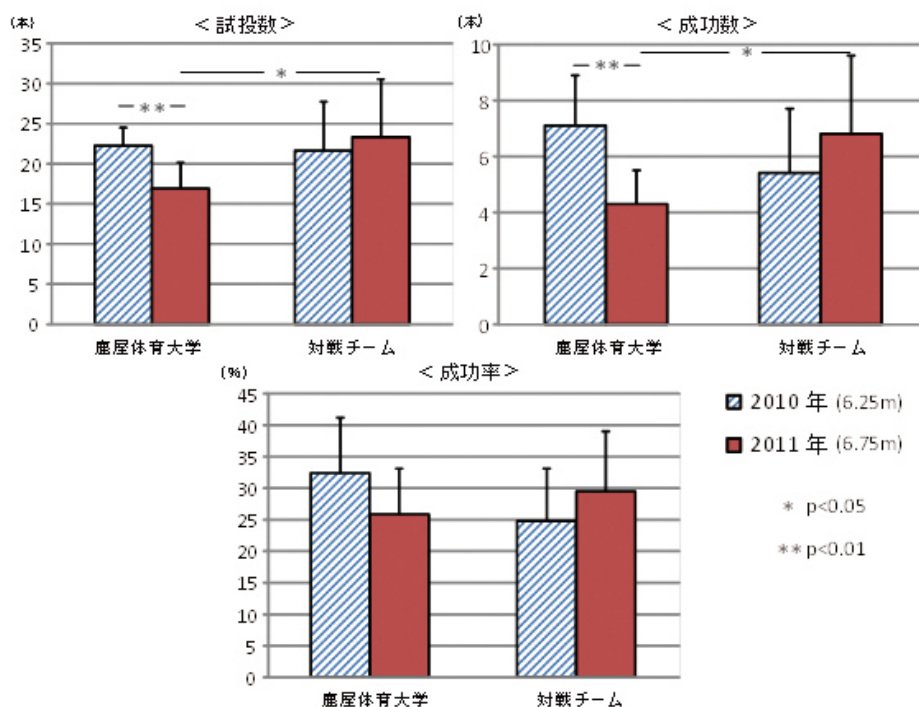


図3 ルール改定に伴う3ポイントシュートの試技数、成功数、成功率の変化

## 2) 3ポイントシュート試投数、成功数、成功率の比較

図3から、鹿屋体育大学の1試合当たりの3ポイントシュート試投数は、2010年と比較し、2011年が有意に少ないことが明らかになりました。これに対し、対戦チームの3ポイントシュート試投数は、ルール改定前後で有意差は認められませんでした。むしろ平均値は増加する傾向がみられました。ルール改定前後の年別の2群間比較において、2010年は鹿屋体育大学と対戦チーム間で3ポイントシュート試投数に有意差は認められませんでした。2011年では、鹿屋体育大学が対戦チームよりも有意に少ないことが明らかになりました。

鹿屋体育大学の3ポイントシュート成功数は、2010年と比較し、2011年が有意に少ないことが明らかになりました。これに対し、対戦チームの3ポイントシュート成功数は、ルール改定前後で有意差は認められませんでした。むしろ平均値は増加する傾向がみられました。

ルール改定前後の年別の2群間比較において、2010年は鹿屋体育大学と対戦チーム間で3ポイントシュート成功数に有意差は認められませんでした。2011年では、鹿屋体育大学が対戦チームよりも有意に少ないことが明らかになりました。

鹿屋体育大学の3ポイントシュート成功率は、2011年において2010年よりも低下していましたが、有意差は認められませんでした。これに対し、対戦チームにおいては、2011年において2010年よりも成功率が上昇

していましたが、有意差は認められませんでした。ルール改定前後の年別の2群間比較においても、成功率に有意差は認められませんでした。

以上のことから、3ポイントラインが6.25mから6.75mへと50cm延長されたルール改定は、大学女子バスケットボールチームに一律の影響を与えるものではありませんでした。むしろ、チームの特性、身長やチームにおける3ポイントシュートの成功率と関係して、ゲームのパフォーマンスに影響を及ぼしているのではないかと考えられました。

なお、本研究の詳細は、鹿屋体育大学学術研究紀要第45号 (<http://www2.lib.nifs-k.ac.jp/HPBU/annals/an45/45c.html>) に掲載されていますので、興味のある方はご覧ください。

## これからの研究の展望

今後も、スポーツに関する知見を、論文として掲載していきたいと思います。